

テーマ：聖霊（講話2）

皆さんの中のお一人の方。その方はいつも「バカだ」と言われ続けてきました。その方に神は言われます。「この嘘を信じてはならない。この嘘を信じることを禁じる。あなたは私の子だ。私はあなたに有能さを与えた。今日、あなたは私を見つけるだろう。私が誰かを知るだろう。今日、私の愛の中で、あなたの本当の姿を見つけるだろう。あなたは私の目に価値ある者だ。あなたは私の真珠だ」。アーメン。

今、こうしてお話ししながら、私は、皆さんの中にイエスを切に望む気持ちを起こさせるべきだと感じています。

主はニコデモに向かって、「あなたは新しく生まれなければならない」とおっしゃいました。サマリアの女に向かって、「水を飲ませてください」と言われました。今日、イエスはあなたに向かって「水を飲ませてほしい」と言われます。

そうすると、あなたはイエスに言うでしょう。「イエス！ あなたが私に水をください」。

でも、イエスは続けて言われるのです。「あなたが私に水を与えなさい」。

「OK、イエスさま。コーヒー、紅茶、コーラ、ビール、ウイスキー？ 何を差し上げましょう？」

イエスは十字架上で、「渴く」と言われました。そして、私たちから酢を与えられました。皆さん、私が喉が渴いたと言ったら、酢をくれるのはやめてくださいね。できれば、ノンアルコールのビール、よく冷えたのをお願いします。

イエスは酢を受けられました。イエスはあなたの人生の中のネガティブなものをすべて欲しいと思われています。あなたが体験したことを全部欲しいと思われています。

あなたが喜びを覚えるなら、その喜びに、あなたが苦しんでいるなら、その苦しみに、あなたが病気ならその病気に渴いていらっしゃいます。

もし、あなたが罪を犯したなら、その罪に対して渴きを覚えられます。

ペトロはいつもイエスを思い、イエスのために行動していました。イエスをかばったり、イエスのために何か良いことをしようとしていました。

しかし、ペトロが蛇に噛み付かれたこと（悪魔に負けたこと）をみなさん、ご存知ですよね？

ペトロは三回イエスを否みました。その後でペトロはとても悲しくなっていました。

蛇は彼に噛みつき、毒をペトロの体の中に残したのです。

蛇に噛み付かれた時、第一に何をすべきでしょうか？ 傷口から毒を吸い取るのではないのでしょうか？

復活後、イエスはペトロに会うために急がれました。イエスは、ペトロの傷口から毒を吸い取りたいと思われたのです。

イエスは三回質問をされました。「私を愛しているか？」

ペトロはその質問に答えることが許されました。「はい、主よ、あなたは私があなたを愛していることをご存知です」。ペトロの心の中には、まだ愛があったのです。しかし、主を否んでしまったことによる毒で彼の中は混乱していました。この毒を吸い取ることができるのはイエスだけです。

この毒が取り除かれたら、私たちは人生がもっと明確に見えるようになるのです。イエスのところに行くとき、私たちは謙遜にならなければなりません。私たちの傷をそのままイエスに見せなければなりません。

ミオから習ったのですが、告解するときは、具体的にその罪の名前を言わなければなりません。昔、カテキズムでは「医者は患者が患部を見せなければ癒すことができない」と教えられていました。病院に行って、「負傷したので治してください。でも傷は見せたくありません」では、医者は治療することができません。

告解においても同様です。「〇〇を盗みました」「嘘をつきました」「人を殺めました」と具体的に罪を言う必要があります。

「私がやったことはすべて申し訳ないです」という告解をする人がいます。しかし、これは正しい告解とは言えません。犯した罪を具体的にすべて言う必要があるのです。

知恵の書7章26-27節に、「知恵は永遠の光の反映であり、神の働きを映す曇りない鏡であり、神の善のかたどりである。知恵はひとつであるがすべてができ、自らは変わることなく、すべてを新たにする。代々にわたって聖なる魂に移りゆき、彼らを神の友とし、預言者とする」とあります。

知恵は聖なる魂にしか入ることはできないのです。聖なる魂とは何でしょう？

それは、罪のない状態の靈魂のことです。

聖性と罪は相容れないものです。サタンは、「お前はふさわしくない。聖人ではない。良い人間ではない」と囁きます。聖なる者でないなら聖霊は受けられません。

皆さんの中で聖なる人は手を挙げてください。おや、みなさんは半分だけ聖人ですか？ では、すぐにお帰りください。誰も聖霊を受けられませんね。聖霊の注ぎはありません。今日はこれでおしまいです。。。。。。

…皆さん、私は今日全員が聖霊をいただけると確信しています。神は皆さんお一人お一人に聖霊を与えたいと強く望まれている信じています。たとえ、自分自身の力では清い者になれないとしても。

ある人が、自分にはいつも影がついて回るのに気づいて、影を取り除きたいと思いました。そこで助走をつけて影を飛び越えました。ところが、飛び降りてみると影もついて来ました。では今度は後ろにと、思いきり後ろに飛んだのですが、影も一緒に飛んでついてきました。

そこで彼は知恵ある人のところに行き、相談しました。「太陽が明るすぎて、わたしは自分の影から逃れることができないのです。なんとかならないでしょうか？」

知恵者は言いました。「それは実に簡単ですよ。十字架の前に立ってごらんください」。

その人は言われた通りにやってみました。すると、目の前にはもう自分の影はなく、十字架の影だけが見えたのです。

私たちもそうしましょう。十字架にくっつくほど近くに立ちましょう。こうすることで、私たちの影、罪、が消えるのです。これは、私たちの力によるものではなく、神の御業です。

聖なる告解によって、私たちの影を無くしましょう。神は力強く働いてくださいます。放蕩息子の例のように、御父の懐に戻りましょう。

「愛は多くの罪を覆う」（第1ペトロ4：8）とペトロが言っているように、愛であるイエスが私たちのすべての罪を覆ってください。

これを書いた同じペトロは三度イエスを否んでいるのです。そのペトロがまたこうも言っています。「すべての思い煩いを神に委ねなさい」（第1ペトロ5：7）そうするなら、主があなた方に代わって面倒を見てくださいます。

あなたの罪は、あなたにとって問題かも知れませんが、イエスには何の問題もありません。しかし、その罪をあなたがイエスに渡さないなら、それは大なる問題です。あなたの罪をあなたとイエスの間に置かないでください。イエスとあなたの関係を罪で隔てないでください。

私の兄弟のうち男の子は、上から、パウロ、マルコ、ニコ、フレンツですが、私たちが小さいとき、母は私を呼ぼうとして「パウロ、じゃない…マルコ、えーフレンツ！」と混乱することがありました。私たちが告解するときは、こんなことがないように、どうぞ罪の名前を間違えずに言ってくださいね。

イエスと私たちの間に、隔てるものがないことが非常に大事なのです。

イエスはあなたの弱さを喜ばれます。私たちは弱いので、イエスを求めるのです。イエスは酔に対する渇きではなく、あなたの魂に渇いています。

聖書の長血を患う女の話（マタイ9：20、マルコ5：25、ルカ8：43）ですが、この女性は何をしたでしょう？ 彼女は後ろからイエスに近づき、イエスの衣に触れたのです。

この癒しは素晴らしいものでした。イエスはご自分の中から力が出て行ったのを感じました。信仰を持って触れた誰かのゆえに、自分の中から力が出て行ったのを感じたのです。

もし、私たちがイエスに信頼し、信仰を持って触れるなら、それは水道の蛇口をひねるような働きをし、その蛇口から神の愛がほとばしるのです。

イエスは、このとき、先に行くことができました。あるいは、「あ、誰かまた癒された」とおっしゃることもできたはずですが、しかし、イエスは立ち止まりました。そして、「誰が触れたのか」と聞かれたのです。もちろん、神なる御子は誰が触れたかをご存知でした。では、なぜそう質問されたのでしょうか？ それは、触れた女性のために他なりません。イエスはこの女性に渇いていました。この女性がイエスに渇いているのも知っていました。

このような病気を長い間患っていたこの女性は、人々から疎んじられ、除け者にされていたでしょう。イエスは身体的な癒しだけでなく、心も癒したかったのです。イエスは、公に彼女を癒すことによって、彼女が人々に受け入れられる状態を作ったのです。イエスが、誰よりも先にその女性を受け入れられました。神から価値を与えられることは実に大事なことです。私たちは、まず人間としての自分の価値を求めます。イエスはファリサイ派の人々に、あなた方は人々に認められたがっていると非難されました。人ではなく、神が本当の価値をあなたに与えるのです。イエスは、この女性を見たいと思われ、彼女に彼女の立ち位置をお与えになったのです。彼女はもはや人混みに隠れてイエスに近づくのではなく、イエスの前に立ちます。イエスは彼女の目を見たいと思われ、彼女がイエスの目を見ることを望まれました。

イエスは、私たちの目を見たいと思われています。恐れを持たずにイエスと対面してほしいと思われています。

イエスはこの女性に「あなたの信仰があなたを救った」と言われました。この時、周りには大勢の人がいたのです。

この状態を思い起こしてみてください。この女性の立場を考えてみてください。

彼女はイエスの前に立ち、その周りには大勢の人たちがおり、この病気の女性のことは大抵の人が知っていました。この女性はあちこちの医者に行ったのを知っていました。もしかすると、治りたくて彼女は占い師を訪れたかも知れません。

今、イエスは人々の前でこの女性に価値を、尊厳をお返しになりました。周りの人々は皆、イエスが言われたことを聞いたのです。「あなたの信仰があなたを救った」。

皆、この場面を目撃しました。イエスは偉大なことをこの女性になさったのです。もう、誰もこの女性を指差すことはできなくなりました。

この女性は、イエスの影に保護されたのです。イエスはこの女性に渴いていました。この人の美しい魂と強い信仰をご覧になり、彼女の魂を自由にされました。その後で病気を癒されたのです。

私たちもイエスの影に隠れましょう。あなたがどんな人生を送って来たか、どんな体験をして来たかは関係ありません。皆、イエスの影に隠れましょう。

最後に、ひとこと。

皆さんの中の、最低でも一人の方。その人は、心の中に大きな苦しみがあり、自分のしたことを非常に恥じています。なぜなら、神がくださった命を中絶したからです。

イエスは言われます。「私はあなたを裁かない。私の保護のもとに来なさい。あなたを赦したい。私のもとに来なさい。このことを痛悔しなさい。私はあなたが生きることを望む。あなたは生きなければならない。この子は生きている。あなたを赦す。この子もあなたを赦すだろう。あなたが自分自身を赦すことを私は望んでいる。アーメン！

-----講話第2部終了

SUZUME-SUZUME